

報告「カンキツ新技術・新品種研修」を開催

令和4年3月8日～10日に「収益性の向上を目指した新技術・新品種の活用」をテーマとしたカンキツの研修を、新型コロナウイルス感染拡大リスクを配慮してリモートにより実施しました。参加者は、研修カリキュラム受講登録者3名、技術開発・普及協力者27名で合計30名でした。

講義は鹿児島大学富永茂人名誉教授および農研機構職員等、合計7名の講師により実施されました。講義内容は、①「Sマルチの施工方法および栽培管理方法について」、②「商用電源のない簡易施設に対応した低コスト、環境モニタリングシステム」、③「カンキツにおけるスマート農業技術開発および社会実装に向けた現状と課題」、④「今後のカンキツ品種開発に求められるもの」、⑤「農業生産現場における無人飛行機（ドローン）の活用に向けて ～ドローンによる空撮・画像計測～」、⑥「生物多様性を保全し、それを活かした農業生

産経営」でした。また現地実習に代わり、動画等を利用したオンライン実習として、「中晩生の『かんきつ中間母本農6号』、レモン『璃の香』の特性を活用した利用方法」、「Sマルチ施工作業実習」および「中晩生カンキツ類の品種紹介」を行いました。

今回の研修は、口之津カンキツ研究試験地に事務局を置き、現地実習を補う形で画像配信をできるだけ利用しました。受講者から、「現場等の実際の作業風景を確認できるので大変分かりやすかった」「旅費や時間の問題で直接現地での参加が難しい者にも参加しやすいように今後もリモートという形態での情報の発信を行ってほしい」との意見を頂きました。

一方、実物（果実、着果状況、Sマルチ等）を前にした研修の開催や対面（リアル）開催で自由に意見交換できる場を望む声があり、コロナ感染拡大等の対応状況を考慮しながら対応を検討していく方針です。

報告 九州農政局消費者の部屋に出展

令和4年4月4日～15日の期間で、九州農政局消費者の部屋における特別展示に、農研機構九州沖縄農業研究センターが出展協力しました。

九州農政局消費者の部屋は、熊本地方合同庁舎（熊本市）1階ロビーにあり、年間を通じて農林水産行政や食に関する情報提供などを行い、消費者とのコミュニケーションを深める場です。

出展協力した特別展示のテーマは「お米・米粉の魅力」で、米粉に向く水稻品種「ミズホチカラ」と「笑みたわわ」のパネルとサンプル展示を行いました。

これらの九州沖縄農業研究センターが開発した品種の紹介を通じて、来庁者にお米や米粉の魅力を伝えるとともに、研究成果や取り組みをアピールしました。



▲ 「笑みたわわ」市販米パンケーキミックスサンプル、「ミズホチカラ」市販米粉サンプル展示の様子

報告 令和4年度農業技術研修生が入所

農研機構には、園芸や茶業などの業務に就きたい方に向けて2年間研修を行う「農業技術研修制度」があります。九沖研では野菜栽培における分野で研修生を受け入れており、筑後・久留米研究拠点(久留米)にて2年間の研修を行っています。研修では、講義と実習を通してイチゴや施設野菜の栽培・生産に関する知識や技術を習得できます。令和4年度は4月6日に久留米研究拠点にて入所式が行われ、2名が研修生として入所しました。

所長からの式辞後、入所者代表による宣誓が行われ、「地域の園芸振興の中心的人材になれるよう、多くを学び、周囲の信頼と友情を深め、所期の目的を達成するよう努力して参ります。」と決意を表しました。



▲入所式の様子

受入研究員

技術講習生

受入先	派遣元機関	期間	受入人数
暖地畑作物野菜研究領域 施設野菜グループ	株式会社グリーンサポート	令和4年4月1日～令和5年3月31日	1
暖地畜産研究領域 飼料生産グループ	東海大学農学部動物科学科	令和4年4月27日～令和4年11月30日	8
暖地畜産研究領域 肉用牛生産グループ	東海大学農学部動物科学科	令和4年5月9日～令和4年11月30日	2

九沖研 NO.68 2022.7
ニュース



編集・発行／国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)九州沖縄農業研究センター
住所／〒861-1192 熊本県合志市須屋2421 ☎096-242-7530
<https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/>